

# 県主

コンベンション国際展示場事業が41億7311万円(前年度比0.3%減)、工業団地整備事業が31億5200万円(同11.6%増)など。同部の予算は県予算の12.1%を占める。

本年度は、①産業振興・経済の活性化の6つを柱に施策を展開する。②主要事業では、オリンピック・パラリンピックの競争相手となった幕張メッセの振興③圏央道・東京湾アクアラインを活用した県内の活性化を図るため、本年度から15年間で約160億円を投入し、老朽化する施設・設備の大規模改修を実施する。また工業団地整備では、

## 施策別の主要事業

- 【産業振興・企業立地】
  - 業4000万円▽地域主導型新エネルギー活用プロジェクト支援事業1500万円
  - 業11億3千万円▽雇用労働の整備事業に着手することにも、17年度の分譲開始に
  - 業4000万円▽地域主導型新エネルギー活用プロジェクト支援事業1500万円
  - 業11億3千万円▽雇用労働の整備事業に着手することにも、17年度の分譲開始に
- 【中小企業の経営支援】
  - 業11億3千万円▽雇用労働の整備事業に着手することにも、17年度の分譲開始に
- 【観光振興】
  - 業11億3千万円▽雇用労働の整備事業に着手することにも、17年度の分譲開始に
- 【東関東・南東北や近都圏交通を活用した県経済の活性化】
  - 業11億3千万円▽雇用労働の整備事業に着手することにも、17年度の分譲開始に

# 理論と法令と緊張感 クレーン特別教育に17人



## 県コンクリート製品協会の閉講式

閉講式では組合の太田事務局長(右)から修了証の授与

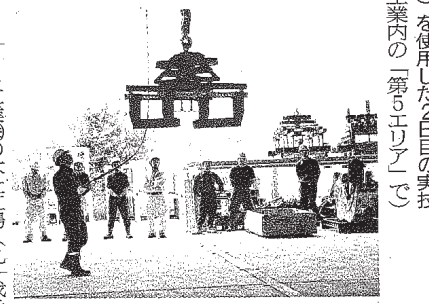
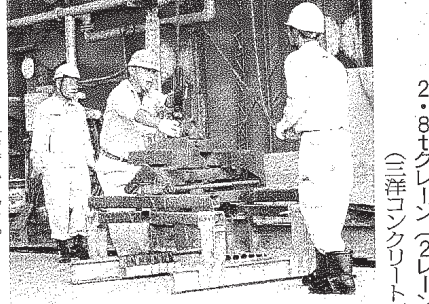
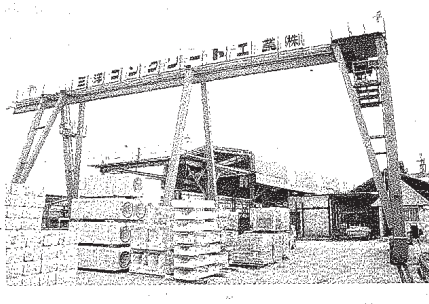
の業務特別教育を行い、組合員6社から17人が受講。修了者には安全衛生教育手帳に、同教育の修了を証明。講師は労働安全コンサルタントの小野鐵雄氏が務めた。テキストには「クレーンの運転」を使用。つり上げ5トン未満のクレーン運転の業務に従事するために、労働衛生法に



高藤副理事長



小野講師



おけるクレーン運転などの安全規則により、特別教育等を行うことが義務付けられている。このため同組合では、2012年度から組合員で同業務の特別教育を開始し、本年度までに66人が教育を修了。これからは、組合員の実施場所として、組合員の花沢建材工業(12・13年度)と三洋コンクリート工業(15年度)が協力。

2日間で学科9時間、実技4時間

今回の講習実施場所は、22日(学科)が千葉市内のポテックカレッジ千葉、23日(学科・実技)は、昨日に引き続き、三洋コンクリート工業の(本社)工場(九十九里町)。学科のカリキエラムは、クレーンに関する知識(3時間)をはじめ、原動機及び電気に関する知識(3時間)、関係法令(1時間)、力学に関する知識(2時間)。実技には4時間を充てた。

怪我をしない、させない意識を強く

クレーン講習の閉講式では、小野講師が「2日間の学科講習では、私の方から一方的に話をしたが、その場合、聞き手側の理解度は一般的に2割程度だと言われている」と述べ、「講習の中身

が「頭と身体に浸り込んだ」とは決して言わない。これからクレーン作業を行う中で、わからないことや疑問を感じた時には、その都度テキストを開いて確認してほしいと要請。実技についても「これから法令や理論を学んだ後の作業となる。一つひとつの動作を確実に身につけて、常に『自分は怪我をさせない』『周りの人も怪我をさせない』『会社から絶対、怪我人を出さない』という強い意識を持って、慎重に仕事をして頂きたい」と呼びかけた。

# はばたけ フレッシュジャー

2016

1

化学では化学を専攻し、固体という熱い思いを胸に、(株)酸触媒の研究をしていた。「生 藤田土木に入社。所属していた大学の研究室の同期が、化学の活の基盤を支える仕事をした

化学と建設業に共通点

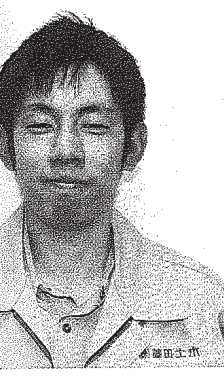
ラントなどの化学分野の会社に就職していく中、ただ一人建設業界を選んだ。不安はもろろんあったが、「一から勉強する方がよほど頑張るの、むしろチャンスだ」と前向きな姿勢で挑んだ。研修を受けて「掘削する土量の計算などが化学の計算に近い」と気づく。化学と建設業は「ものづくり」で共通する

「人の役に立つ」実感を

の取り扱い、高所での作業など『危険が多い建設業』を理解するため、研修では、実際に機械や道具を触り、注意するポイントなどを学んだことで「実体験を通して建設業の安全への意識の高さがわかった」

怪我をしない、させない意識を強く

クレーン講習の閉講式では、小野講師が「2日間の学科講習では、私の方から一方的に話をしたが、その場合、聞き手側の理解度は一般的に2割程度だと言われている」と述べ、「講習の中身



小森大輝さん

化学はミクロの世界で、細かい作業が多い。「何のために化学を学んでいるのかわからない。研修として、流山市や

「人の役に立つ」実感を

の取り扱い、高所での作業など『危険が多い建設業』を理解するため、研修では、実際に機械や道具を触り、注意するポイントなどを学んだことで「実体験を通して建設業の安全への意識の高さがわかった」

怪我をしない、させない意識を強く

クレーン講習の閉講式では、小野講師が「2日間の学科講習では、私の方から一方的に話をしたが、その場合、聞き手側の理解度は一般的に2割程度だと言われている」と述べ、「講習の中身

ハイブリッドカーは千葉トヨタ。

オフィスのパート

事務器 事務用品

京葉事務器材